



メロン、丸い形は地球に見える？メロンのようにおいしく、その表面の網目のように緻密なネットワークを広げる月刊情報誌をめざします！

巻頭	多言語による生活相談 (後編) ～一緒に歩く コミュニティをつくる～ …… 1	カレンダー	2021年8月の comm cafe ランチカレンダー …… 5
コラム	もう誰も忘れたかもしれない戦争のこと～母の8月15日～ …… 3	お知らせ	協会・他団体からのお知らせ …… 6
		編集後記	編集後記 …… 8



## 多言語による生活相談 (後編) ～一緒に歩く コミュニティをつくる～

幅広い事業を進める協会だが、外国人市民のもっとも切実、困難な悩みに取り組むという意味でも、また、そこから見えてくる地域社会の課題に協会が向き合っていくためにも、「外国人市民のための生活相談」はその基礎をなす事業と言ってよいだろう。前号ではその全体像をお伝えしたが、今回は継続した対応が必要となるケース相談についてお伝えする。

### 生活困窮や学校・教育などの相談

2020年度に協会が対応した相談件数934件のうち、376件は複数回の継続した対応を要した相談ケースだった。相談の案件としては21ケースで、1件あたりの対応回数は平均18回となっている。その内容をカテゴリーで見ると、コロナの影響での失業や就職がなくなった、収入が減ったことによる生活困窮を中心とした相談が7ケース。進学についての相談や学校生活でのトラブル、不登校など学校・教育に関する相談が7ケース。その他、在留資格や雇用、家族関係などに関する相談が寄せられている。

### 課題を整理し 資源をつなぐ

こうした相談への対応にあたっては協会の相談チームで、相談内容と状況の把握、相談者が持っている力やつながりの見立て、利用できる社会資源の検討など

を行い、相談者に取りうる選択肢を提案しながら対応を進める。チームで対応しているのは、多角的に状況を検討し、また管理職も含め組織的に対応をするためだ。組織のなかに経験を蓄積するという面もある。相談者の意向を踏まえて他機関とともにこうしたプロセスを踏んでいくこともある。仕事探しや家探し、福祉制度の利用など「解決」のイメージが相談者のなかで具体的になることで、適切な社会的リソースにつながり、ひとまずの解決を迎えられる相談もある。

### 「解決」の見えない世界を 一緒に歩く

一方で、課題が複雑であったり、複数の関係者の間に葛藤があるような場合には、どうなることが「解決」なのか、ということそのものが悩ましい場合も多い。

例えば、子どもの学校の不登校の相談。そもそも「解決」とは何なのか。保護者の思いと子どもの思いは同じとは限らない。「学校に行く」ことが解決なのか？

発行・差出人：公益財団法人箕面市国際交流協会 (MAFGA)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36 箕面市立多文化交流センター内

Tel : 072-727-6912 Fax : 072-727-6920 E-mail : info@mafga.or.jp HP : www.mafga.or.jp

賛助会員数：258名 法人会員数：27団体 (2021年7月16日現在)

その子どもが自分らしく生きる、とはどういうことなのか？そもそも、この社会にはそれを受け入れる用意があるのか？子



どものなかにある複雑な思い。保護者の悩みもつきない。日本の保護者でもそうだろう。ましてや言葉や文化の壁、情報の少なさのなかで、子どもも保護者も苦悩する。情報は提供したとして、それで「解決」するなら世話はない。もちろん、課題を整理し、資源をつなげる努力をするが、相談の主体は子どもであり、保護者である。相談員も一緒に悩むしかない。しかし、「一緒に悩む」ことこそが、あるいはそれこそが、必要な支援なのではないか。

学校でのいじめの相談もそうだ。協会は相談者との話し合いと了解の上で、必要な場合は学校や教育委員会に連絡する。子どもや保護者と学校との話し合いをサポートする。いじめた側が謝って一件落着、などという単純な話ではない。多くの場合、子どもたちは複雑な疎外感を抱えている。自分が理解されない、受け入れられない感覚。そう思われるような小さな傷つきの体験。一見すると「いじめはみあたらない」という話になることもある。しかし、あるのだ。学校はどう取り組んでよいのか、途方に暮れることだろう。しかし、私たちにはそう訴える相談者のその気持ちが何よりの原点だ。それに寄り添い、じっくり時間をかけて一緒に世界を歩く。

生活に困窮して寄せられる相談。就労先を失うことは収入の喪失を意味するが、外国人市民にとってはそれだけではない。会社による偽装倒産や不当解雇など本人に非がない場合でも、日本にいるための在留資格を失うことにつながる。しかも、持っている就労ビザの種類によって職種が厳格に制限されるため、どこでも働けるわけではない。人手不足の時代でも、仕事探しは簡単ではない。

さらに現在の日本の制度では、在留資格によって受けられる福祉制度にも制約がある。例えば生活保護。「永住、定住等の在留資格を有する外国人については、国際道義上、人道上の観点から、予算措置として生活保護法を準用している」というのが日本政府の立場だ。しかし、就労ビザの人はその対象とはされていない。失業に心身の不調が重なっても生活保護に頼ることが

できない。その心的ストレスは計り知れない。

こうした相談にも相談者と面談を繰り返し、なんとか道を探す。答えがなくても、とにかく一緒に歩く。

「今日、寝る場所がない」という相談も、ときどき寄せられる。「誰でも無料で泊まれる場所」というものが、この社会にはほとんどない。DVを受けた人や虐待を受ける子どもを保護する公的施設はいくらかあるが、それでも「今日」となるといういろいろな制約が付きまとうし、そもそも条件を満たさなければ利用できない。ときどきのことなので、協会でシェルターを維持するということも難しい。しかし、困っている相談者にとってはそんなことはどうでもよいのだ。なにしろ「今日、寝る場所がない」のだから。格安のネットカフェや簡易宿泊所、通っている教会、頼れる友人、知人の可能性など…なんとか当面をしのぐ術をひねり出す。その間に公的施設や福祉制度の利用など、今後の見通しについて他機関にも相談しながら探っていく。

一緒に歩く、というプロセスを私たちが大切にしているのは、ある意味では「それしかできない」ということであり、しかし「それはできる」ということでもある。そして孤立しがちな外国人市民への相談対応においては「それこそが大切」だと思うからなのだ。



コミュニティが力をあたえる コミュニティに力をあたえる

もう一つ、協会の相談事業にとって大切な一面がある。それは「ここにコミュニティがある」ということだ。

相談の場にいるとき、私たちは「相談員」と「相談者」として話をする。そこでは、相談者は「相談する人」としてふるまい、相談員は「サポートする人」としてふるまう。それ自体は自然なことだ。しかし、これは人間を全体性のある存在として考えたときには、ちょっと不健全な関係ではある。相談者はここでは「相談する人」だけれども、別のときには他の人の相談にのったり、人に頼られたり、人を笑顔にしたり…いろいろな面をもった存在だ。協会がコミュニティのなかにあることは、そのいろいろな面を発揮してもらいながら、相談する、されるとは異なる関係を結ぶこともできる可能性を生んでいる。



例えば、comm cafe はいろいろな人、いろいろな形の参加によって成り立っている。その中心には外国人市民が提供する家庭料理があり、そのまわりに様々な作業がある。お皿を洗ったり、料理を作ったり…作業をすると、座って話をしているときとは違った一面が見えてくることがある。一緒にご飯を食べながら、雑談をして、よもやま話をする。日本語はゆっくりでいい。ここではネイティブの人のほうが少数派なのだから。協会にとっては、こうした参加はありがたい。そして感謝されると、人は元気が出る。慣れてくると、意見がぶつかったり、行き違いがあったり…いろいろあるわけだが、それも含めて人間どうしのリアルなつながりだ。そして、しばらくかかっていると雑談のなかで、いろいろな相談もできるようになる。家族のこと、子どものこと、老後のこと、などなど…。

人と接することが苦手な子どもや若者もいる。そんな子どもとは個別で話をする。そうしていると、実は得意なこと、やってみたいことがあることがわかる。何に困っているのかが少しずつ語られる。その子どもが持つ力や困りごとに、この協会のコミュニティに関わる様々な人や機会が繋がると、小さな集まりが生まれて、会話が

はじまる。新しいエネルギーが生まれる。「事業」なんて大袈裟なものじゃない。小さなつながり。細々とした取り組み。でも、なかなか味わいのあるものが、実はいろいろ続いていて、このコミュニティに彩を与えている。

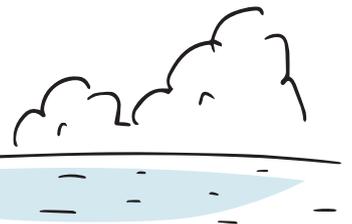
こうしたコミュニティのベースにあるのは、やはり多様性だ。多言語、多文化、多世代…な人たちがいる、というだけではない、それぞれが自分の何かを表現し、いくらかのぶつかりあいをしながら、ゆるくつながっている。その生きた多様性が協会の相談事業を支えていて、相談事業によってこのコミュニティが豊かになっている。

### めざす社会のエッセンス

相談件数が増加するなかで、職員の研修や相談員を支える仕組みづくり、記録の取り方など、協会の事業としてのバージョンアップも必要となっている。こうしたことに取り組みながらも、協会がこの地域のなかで培ってきた相談事業のスタイルを大切にしたい。相談者のエンパワメント、多様性を包摂したコミュニティづくり、寄り添い型のケース対応。そこにはいつも、私たちがつくりようとしている社会と事業のエッセンスが詰まっているのである。(河合)

## コラム

### もう誰も忘れたかもしれない戦争のこと ～母の8月15日～



私の母(洋子)は、1924年(大正13年)生まれ97歳、老人ホームでお世話になっている。「お話はあまりされなくなりましたが、お元気ですよ」母はお喋りだった。私が、毎月実家に帰っていた頃、起きていれば喋り続けていた。

母の生まれた埼玉県宮代町は、浅草から東武線で日光や鬼怒川温泉への沿線上にあり豊かな田園風景が広がる米作地帯だった。女学校2年の春、突然英語の授業がなくなった。「担任は青山学院出のしゃれた英語の先生だったけれどね、農作業の先生になっちゃったんだよ、気の毒だったね」「わたし?勉強嫌いだったから、楽しかったよ。授業の半分くらいは農作業と、農家への手伝いに行かされてね、田植えや草取りばかりしてた」この農家の手伝いがうれしかったのには訳がある。作業が終わると一人一人にお礼が配られる。「ケチな家は飴玉ちよっぴりだったけどね、たいていの家はふだん女学生の小遣いでは買えないような上等な餅菓子なんかが入っていてね、帰りに食

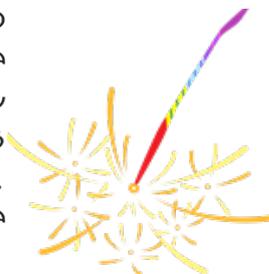
べながら帰ったねえ」。まだまだ、戦争が何かも分からずのんびりと暮らしていた頃だった。女学生たちが一度、憤った事があるという。作業が終わり庭先から「終わりました」と報告をした時、「奥の間に机に向かってる男の子がいるんだよね。よく見たら、小学校の時の同級生じゃないか。あんた何してるんだよ。『明日から期末試験だぜ。お前ら勉強しなくていいのかよ』この家は、息子に勉強させて、私たち女学生に野良仕事頼んでいたんだよ。失礼しちゃうよね」。けれど、「あの子戦死しちゃったんだったかなあ」。母の表情が、遠くを見るような目になる時だった。

母は、卒業3、4年後結婚して東京に行ったが、夫が召集されたので、父親から「東京は危ないから帰って来い」と言われ実家に戻っていた。姑が喜んで送り出してくれたのは、「息子もいないし、嫁の食い扶持が減るのがうれしかったんだと思うよ」。実家には、「親戚の疎開荷物が山と積まれていたね」だんだん東京の空が真っ赤になることが多くなり、戦争はどうなってしまうのかと薄々感じながらも、ラジオの大本営発表は威勢が良くて、戦争状況が悪化していることなど思いもしなかった。

1945年8月15日。その日も暑い夏の日だった。村の世話役が来て各地区から二名ずつ手伝いを出せと命令が来たから行って欲しいという。母は嫁に行ったのだから此処の住民じゃないと思ったけれど、『村の娘たちは毎日精一杯働いてせっかくの盆休みなんだよ、気の毒で行ってくれとは言えないよ、洋ちゃん遊んでるじゃないか』と言う訳で、仕方なく隣村まで出かけて行った。寺の境内ではもう大勢の人が集まっていて、大釜が幾つもぐらぐら煮えたぎっていた。中には松の根っこ。じっと見ていると時折、ポツツ、ポツツと小さな油が浮いてくる。それをすかさず掬って、瓶に詰めていく。「おじさんこれ何?」「これか?ゼロ戦とか特攻機とかさ、エンジンにこの油を塗るんだと。これがないと飛行機が飛ばないんだとさ」これで?こんなことをして油を集めないといけなほど、日本は困っているのか?

お昼近く村の長老が、『みんなご苦労さん、昼から大事な放送があるから、〇〇さんちに集まってくれ』どここの家にもラジオがあるわけじゃなかったからね、そろそろ行ったよ。縁側に置かれたラジオ、音が悪くてよく聞き取れないのよ。玉音放送だったんだね、・・・堪え難きを堪え、忍び難きを忍び・・・って泣いているような声がやっと聞き取れた。終わって、前の方で聞いていた人が、『戦争が終わった』とぼつりと言ったけれど、何の感慨も無かった。もう仕事もないから皆で後片付けをして帰った。

父は、富士の裾野で訓練をしていた時だったので、すぐ帰って来ることができた。東京の焼け野原に戻り、社宅で暮らし始めたころ、米軍から東京の各家庭に配給があった。「丸い缶のバターと砂糖(小麦粉だったかもしれない)、バターのいい香りがうれしくてね、こんなものを日本人に配ってくれるような豊かな国と戦争していたんだよ」母の頭の中には、あの日の小さな油の粒が思い浮かんだに違いない。二言目には「戦争なんてしたらいけないよ、人を不幸にただけなんだから。中国や韓国の人たちが怒るの当たり前だよ。それだけ悪い事をしたんだから」と言う母。母の平和への願いが、ずっと続くよう祈らずにいられない。(井嶋)



胃腸科 内科 外科 肛門科 リハビリテーション科

## おざわクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土
am9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
pm1:00~3:00(胃カメラ)	□	□	□	□	□	□
pm5:00~7:30	○	○	○	○	○	○

※診療開始 30分前から受付します。  
 ■胃カメラは予約制です。  
 ■休診日：土曜日午後・木曜日・日曜日・祝日  
 ■http://ozawa-clinic.world.coocan.jp/  
 【住所】〒562-0023  
 箕面市栗生間谷西3-7-9シャトー野間1F  
 阪急バス停留所「空の前」スーパーマルヤス向い  
 □無料駐車場有

TEL: 072-730-0721

fairtrade shop & cafe

エスパーロ  
能勢  
—  
espero nase

フェアトレード雑貨と古民家カフェ

豊能郡能勢町地黄 476

営業時間：金～月 11:00～17:00

http://espero-osaka.com/

箕面市国際交流協会の  
多言語による生活相談窓口

電話 072-727-6912  
(日本語・英語)

メール soudan@mafga.or.jp

子育てや教育、仕事、医療、福祉、在留資格など、生活での悩みや困りごとに対応します。秘密厳守。相談は無料です。

日時：火曜日から日曜日 9:00~17:00

受付方法：来館、メール、電話

対応言語：日本語、韓国・朝鮮語、中国語、英語、ポルトガル語

場所：箕面市立多文化交流センター

8月  
August



# comm cafe ランチカレンダー

コムカフェ

火～土

9:30 - モーニング (11:00am L.O.)  
 9:30 - 11:30 朝カフェ  
 11:30 - 14:00 ランチタイム \*売り切れ次第終了します  
 - フルメニュー ￥880  
 - 限定メニュー ￥770  
 14:00 - 17:00 午後カフェ

日・祝日

\* ランチはありません

9:30 - モーニング (11:00am L.O.)  
 10:00 - 13:00 世界の朝ごはん ￥660 (ドリンク付)  
 9:30 - 15:00 プランチャセット ￥510 (ドリンク付)

おしらせ

- まん延防止重点措置適用期間中は、**テイクアウトのみ**の営業となります。お弁当のご予約お待ちしております！  
→ ご予約 (comm cafe 直通) **072-734-6255**
- 夏休みの特別企画
  - ・ 8/14 読書感想文をお手伝い
  - ・ 8/15 自由研究 しそジュースをつくってみる  
詳細はイベントページを！
- 8/13-8/18 はお盆期間のため、**スナックのみ**の提供になります。

ス… スナック or スウィーツの日    イ… カフェで開催するイベント

げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どようび	にちようび
						1 スランチャセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん <<ロシア>> 10:00～13:00 テイクアウトのみ
2 休館日	3 トウエットさん <<ベトナム>>	4 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック	5 アイリンさん <<イラン>>	6 マリナさん <<スロベニア>>	7 フランクリンさん <<キューバ>>	8 スランチャセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん <<モロッコ>> 10:00～13:00
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
9 [祝日] スナック 15:00～サンビア	10 トウエットさん <<ベトナム>>	11 李さん <<コリア>>	12 ルーパさん <<インド>>	13 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック	14 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック 14:00～読書感想文をお手伝い	15 スランチャセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん <<トルコ>> 10:00～13:00 14:00～自由研究しそジュース
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
16 休館日	17 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック	18 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック	19 ルーパさん <<インド>>	20 アイリンさん <<イラン>>	21 18:00～みのお cinema ジェニーさん <<アルメニア>>	22 スランチャセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん <<トルコ>> 10:00～13:00
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
23 休館日	24 ホーさん <<香港>>	25 山口さん <<中国>>	26 ノックさん <<タイ>>	27 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック	28 アブドゥさん <<セネガル>> 15:00～アラジンスックカフェ	29 スランチャセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん <<ペラルーシ>> 10:00～13:00
30 休館日	31 スランチャセット (9:30～15:00) MAFGA スナック 協会主催事業のためランチはお休みです。					

★コロナウイルス感染拡大防止対策のため変更になる場合があります。最新情報は、Facebook を確認ください。

- ベジタリアン、ハラル、アレルギー対応については、カフェのスタッフまでお気軽にお尋ねください。
- メニューやシェフは変わることもあります。また急きょ、協会主催事業により貸切になることもあります。
- 詳細は、Facebook をご覧ください。 <https://www.facebook.com/mafgachallengecafe>



# 国際交流協会 (MAFGA) からのお知らせ

下記についての問合せ・申込みは (公財) 箕面市国際交流協会まで ※開催場所: 箕面市立多文化交流センター

☎: **072-727-6912** FAX: **072-727-6920** ✉: **info@mafga.or.jp**

イベントの内容が変更、延期、または中止になる可能性があります。最新情報は協会 HP を確認ください。www.mafga.or.jp

定例イベント	<b>読書会</b> <b>8/8 (日)</b> 10:30 ~ 12:00	<b>多文化共理解のための読書会</b> 「ある在日コリアン家族の物語 つないで、手と心と思い〜絵と物語で読む在日 100 年史」を読む。 本を読んで集まり、感じたこと、考えたことを話しましょう。 申込みくださった方には、本をお貸しします。	定員 : 10 名 (要申込) 場所 : comm cafe 参加費 : 無料	
	<b>上映会</b> <b>8/21 (土)</b> 18:00 ~ 20:00	<b>みのお cinema 上映会</b> 毎月1本、視点を豊かにする映画を上映 <b>【上映作品】 パブリック・トラスト</b> 監督 デイヴィッド・ギャレット・バイアーズ / 2020年/アメリカ / 95分 「私たちの公有地と水は脅威にさらされている」 アメリカの公有地を巡る、闘いの映画。	定員 : 10 名 (要申込) 場所 : comm cafe 参加費 : 一般 700 円 賛助会員・大学生以下 無料 (+ ドリンク代 300 円~)	
	<b>読書会</b> <b>8/15 (日)</b> 14:00 ~ 16:00	<b>Sunday Book Review</b> 英語の原書を一緒に読みましょう! 読む本: The Remains of the Day / 日の名残り 著者: Kazuo Ishiguro / カズオ イシグロ	場所 : 講座室 参加費 : 300 円 + ドリンク代 申込み: 初参加の場合要申込	
	<b>多文化体験</b> <b>8/7 (土)</b> 13:30 ~ 15:30	<b>多文化体験・交流・学びクラブ まふがっこ</b> 2021 年度も地域の子どもたちを対象に、地域に暮らす外国人市民との交流を通して、多文化を体験する連続講座で、直接文化にふれよう! <b>【テーマ】 韓国の文化と遊び</b> 講師: ベヘリンさん (韓国出身) ▶ 次回: 9/4 ファテメさん (イランの文化と遊び)	対象 : 小学生 定員 : 10 名 (要申込) 場所 : 講座室 参加費 : 無料	
	<b>活動報告会</b> <b>8/9 (月・祝)</b> 15:00 ~ 16:30	<b>ザンビアの孤児院</b> <b>「Cornerstone of Hope Zambia」の活動を知る</b> ザンビアで HIV 孤児のための支援を続ける団体の活動報告会。 ムレタ桜子 (礎の石孤児院現地コーディネーター) カフェ内で写真の展示あり。	定員 : 20 名 (要申込) 場所 : comm cafe オンライン併用 参加費 : 無料	
	<b>意見交換会</b> <b>8/25 (水)</b> 10:30 ~ 12:00	<b>箕面市立多文化交流センター 利用者意見交換会</b> センターへの理解を深めるための意見交換会。どなたでも参加できます。 内容: ① 2021 年度施設利用者アンケートの結果報告 ② センター実施事業についての意見交換 ③ 施設利用についての意見交換 他	定員 : 20 名 (要申込) 場所 : 会議室 参加費 : 無料	
	<b>ブックカフェ</b> <b>8/28 (土)</b> 15:00 ~ 16:30	<b>Café com Livros ブラジルブックカフェ</b> お久しぶりのブラジルブックカフェ! ブラジルについての本、ポルトガル語の本を広げて楽しめます。 ブラジルが好きな人、ポルトガル語が好きな人、土曜の午後本を片手に交流しませんか? ◎特別企画【わたしの、ブラジル留学体験記】 齋藤真里奈 (大阪大学外国語学部ポルトガル語専攻)	定員 : 20 名 (要申込) 場所 : comm cafe 参加費 : 無料 (ワンドリンク制)	

## 唐木幸子バレエスタジオ ~箕面の地で 40 年の歴史~

\*バレエコース: 「ロシア国立ペルミバレエ学校日本校」のバレエ教授法取得証明書(Dipolma)や、日本徒手療法師会より「徒手療法師」の資格認定を与えられた姿勢調整師でもある指導者が、丁寧に分かりやすく指導致します。「バレエは芸術」として長く続けられるように、また中高生には学業と両立できるよう配慮しています。3才~80才位の年齢層まで、目的に合わせて気軽に楽しく始められます。

\*健康コース: 徒手療法師の資格を持ったバレエ指導者(姿勢科学士)が健康維持を目的とした姿勢調整を致します。

〒562-0041 箕面市桜 4-1-24 阪急牧落駅西側右斜め前 (駅より 30M)  
 072-721-6300 / 721-2576 <http://www.karaki-sachiko-ballet.com/>



(公社) 日本バレエ協会会員・AODT 会員



# 夏休み子ども企画 2 DAYS

**8/14**  
(土)  
14:00-15:00

**読書感想文の書き方教えます** 講師：鳥羽山良平  
場所：comm cafe  
参加費：ワンドリンク注文 (300円程度)  
定員：5名程度 (基本的に小学生を対象)

**8/15**  
(日)  
14:00-15:00

**自由研究にぴったり! 『しそジュース』をつくろう** 講師：岩城あすか  
場所：comm cafe  
参加費：ワンドリンク注文 (300円程度)  
定員：5名程度 (基本的に小学生を対象)



## 他団体からのお知らせ

問合せ・申込みはそれぞれの各団体へお願いします。

コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの内容が変更、延期、または中止になる可能性があります。

### オープニング

### 文化芸能劇場がオープン!

**8/1 (日)**  
**9/11 (日)**

いよいよ8月1日船場に、箕面市立文化芸能劇場がオープンします。  
9月11日まではオープニングイベントとして、「0100DANCE」プロジェクト、  
みのおキッズシアター、高校生パフォーマンス、そして北芝解放太鼓保存会  
「鼓吹」特別公演など9プログラム11公演を実施予定。  
詳しくは文化芸能劇場のHP <https://minoh-geino.jp/> をチェック!

場所：箕面市立文化芸能劇場  
(箕面市船場東3-10-1)  
参加費：無料(要申込)  
問合せ：公益財団法人箕面市メイプル文化財団  
☎ 072-721-2123

### オンライン鑑賞会

### 【夏休み特別企画!】 子ども向けオンライン対話型鑑賞 | 原爆の図



**8/15 (日)**  
13:30-15:00

**原爆の図 丸木美術館 × Demo コラボ企画**  
夏休みの自由研究として、また終戦記念日である8月15日に、平和につ  
いて、戦争について考える機会としましょう。  
埼玉にある【原爆の図 丸木美術館】とオンラインをつなげて、開催します。  
小学校高学年以上~中学生、大学生も大歓迎。

定員：35名  
場所：オンライン (Zoom)  
参加費：こども・学生 ¥500  
大人 ¥1000  
共催：原爆の図 丸木美術館・Demo  
申込み：左記QRコードから

### リサイタル

### 第37回唐木幸子バレエスタジオ プチ・リサイタル 「小品集」「バルセロナの広場」



**8/15 (日)**  
16:30 開演

箕面で40年の歴史を持つ唐木幸子バレエスタジオの発表会。  
ゲスト出演： 恵谷彰、今村泰典、水城卓哉  
★お申込みいただいた方には、入場券を発券します。

定員：450名  
場所：箕面市立文化芸術劇場 大ホール  
(箕面市船場東3-10-1)  
参加費：無料・自由席(要申込)  
主催：唐木幸子バレエスタジオ  
☎ 072-721-2576

### まなびカフェ

### みんなの手話講座~参加者が学びたいことを中心に~

**8/29 (日)**  
14:00 ~ 16:00

2回目となる手話講座入門編。参加者の習熟度を限定せず、参加者が知  
りたい表現を講師のお二人にどんどん質問していく形で会を持ちます。  
「前から勉強してみたいと思っていたけどチャンスが無かった…」  
そんなあなたにぴったりの手話講座です。

定員：15名  
場所：らいとびあ21展示コーナー  
(箕面市萱野1-19-4)  
参加費：無料  
主催・申込：らいとびあ21  
☎ 072-722-7400

### 写真展

### 山田淳子写真展 島々の記憶

### 色丹・国後・歯舞・択捉 原風景を巡る旅

曾祖母と祖父が暮らした歯舞群島の中の志発(しぼつ)島を巡り、  
祖先を知るためと始めた歩みは、自分と出会いなおす旅となった。  
元島民のポートレートなど貴重な作品が並ぶ。  
2018年 センターで行った写真展「いまを、いきる」の立案者

場所：リコーイメージングスクエア  
大阪ギャラリー  
(大阪市中央区大手前1-7-310MMビル1F)  
定休日：火曜日・水曜日  
入場：無料  
☎ 0570-007996 (ダイヤルイン)

**9/2 (木)**  
**9/13 (月)**



スクール coupe de MINAMI 南プロカッティング研究所

## 町屋で楽しく洋服をつくってみませんか?



ボディに布を直接  
のせて服をつくっ  
てみましょう!  
(立体裁断)

南正枝 プロフィール (略歴)

昭和42~45年 フランス・パリの洋裁学校にて立体裁断、  
デザイン等を修得  
昭和45~47年 カネボウ Christian Dior アトリエでデザイナー  
昭和47年以降 大学および専門学校での講師経験多数

◆リフォームや服のお仕立てもいたします! ◆パターンや立体裁断も教えます。◆詳細はホームページあるいは下記まで直接お電話ください!

●問合せ：〒562-0012 箕面市白鳥2-2-30 電話/FAX 072(721)4151  
E-mail info@coupe-de-minami.com URL <http://www.coupe-de-minami.com>

## めろん編集ボランティアスタッフ 募集中!

「めろん」は箕面市国際交流協会と協会ボランティアが協働し、地域の多様性を高める情報をみなさんにお届けしています。取材に行ったり、記事を書いたり、誌面をいっしょに作るボランティアを募集しています。イベントやセミナーの企画や勉強会なども行います。多文化共生に関心のある方、ぜひご参加ください!! 会議の日程は変更になる場合がありますので、参加される際は、事前に協会までお問合せください。

## めろんの広報にご協力ください!

「めろん」をより多くの方に知ってもらうために、自治会やPTA、同窓会、研修、セミナーや授業など様々な催しで、地域から多文化共生を考えるためのツールとして配ってくださいますか。置いてくださるお店なども大歓迎! フォームから必要事項を記入ください。



## 編 集 後 記

この原稿を書いているのは7月上旬、これが印刷物になる8月初めにはこの国はいったいどうなっているだろうか。いろいろな国のナショナル・アンセム(国歌)が流れているのか?それとはもかく、それらの歌はほとんど斉唱(モノフォニー、単一の音の流れ)で歌われる。校歌、社歌などもそうだ(ハーモニーは付く場合もある)。組織体はその構成員を1つの意図でまとめた、といつも思っているのだろう。普通に歌われている歌もモノフォニーが圧倒的に多い。一方、世界には多声の歌(ポリフォニー)も種々存在する。ある地域の人々は昔から伝統的にポリフォニーを楽しんできた。それはけっこう点在していて、例えばアフリカのピグミー族、ジョージア、バルト3国、イタリアのサルデーニャ島、モンゴル(ホーミー(ホーメイ)は一人で2つの音を出す)など。アイヌ民族はポリフォニーを持っているが、大和民族にはない。簡単に試してみるには誰かが歌っているときに一定の音を出し続けると2つの音がぶつかったり調和したりするを経験できる。以前の西洋音楽史では2つの別の音を同時に用いるような「高尚」かつ「先進的」なものは西洋中世の発明だ、と誇らしげに書いてあったりしたが、もちろんそれは誤り。世界各地の人々は昔から楽しんで歌っている。ラトビアのおばあさんたちが世間話をしていただけと思ったらそれがポリフォニーの歌になり、いつの間にかまた普通の話に戻っていくのを目の前で聞いて感激したことがある。ポリフォニーには人の心に寄り添ったり、少し離れて眺めたりする面白さがたくさんある。人と人との関係もモノフォニーではなくポリフォニーでありたいと思う。(鷲尾)

## アクセスマップ



## オレンジゆずるバス

- (平日・土曜) 黄ルート「多文化交流センター前」または赤ルート「小野原南」から西へ約550m
  - (日曜・祝日) 緑ルート「小野原西五丁目」から西へ約200m
- ※「多文化交流センター前」には停まりません。

## 阪急バス

出 発	バス番号	最寄バス停
千里中央 北千里方面から	30, 55, 56 58, 59, 66	① 小野原 ② 小野原西
	175, 176	③ 小野原南
	70	④ 小野原西5丁目
	70, 78	⑤ 関西学院千里国際キャンパス
阪急石橋から JR茨木方面から	92	① 小野原 ② 小野原西

## 「めろん」編集スタッフ

【ボランティア】井嶋眞佐子、荻野克彦、崔聖子、山下三千世、結城なお、鷲尾則昭

【事務局】宇治野清隆、岩城あすか、河合大輔、末原真紀、中村由紀、鳥羽山良平

問合せ：(公財) 箕面市国際交流協会 〒562-0032 箕面市小野原西 5-2-36 多文化交流センター  
Tel : 072-727-6912 Fax : 072-727-6920 E-mail : info@mafga.or.jp

HP : www.mafga.or.jp FB : facebook.com/Mafga みのお多言語ポータル : http://portal.mafga.or.jp/